

## 千葉国際芸術祭 2025 のプレ企画「先生たちのアートアンデパンダン展」を開催します ～中村政人総合ディレクターによる作品鑑賞会も開催されます～

千葉市では、令和7年度に開催予定の千葉国際芸術祭 2025 に向けて、プレ企画「先生たちのアートアンデパンダン展」を開催しますので、お知らせします。

また、2月22日（土）に千葉国際芸術祭 2025 総合ディレクター中村政人氏とともに本企画展を巡る作品鑑賞会も開催されますので、併せてお知らせします。

### 1 概要

(1) イベント名称

先生たちのアートアンデパンダン展

(2) イベント概要

市内学校教員などの先生たちによる絵画、彫刻、写真等の自由な表現作品の鑑賞ができます。

(3) 開催日程

令和7年2月19日（水）～3月2日（日） 各日9：00～19：00  
※最終日3月2日（日）のみ17：00閉場

(4) 会場

きぼーる1階 アトリウム（中央区中央4-5-1）

(5) 入場料

無料

(6) 千葉国際芸術祭 2025 公式ティザーサイト

【URL】 <https://artstriennale.city.chiba.jp/news/67a0165be0cb55914dc84893/>



### 2 中村総合ディレクターと巡る作品鑑賞会

(1) 開催日程

令和7年2月22日（土）  
13：00～14：30

(2) 会場

きぼーる1階 アトリウム  
（中央区中央4-5-1）

(3) 入場料

無料

(4) 参加方法

事前申し込み不要。直接会場にお越しください。

先生たちの  
アート  
アンデパンダン展



千葉国際芸術祭 2025  
Chiba City Arts Triennale 2025  
ちから、ひらく。



中村総合ディレクターによるイメージビジュアル

### 3 取材について

現地取材を希望される場合は、取材希望日の2日前（閉庁日の場合は前の開庁日）までに文化振興課（電話245-5261）までご連絡ください。また、取材の際は、貴社腕章を着用してください。

#### <参考>

##### 1 千葉国際芸術祭とは

千葉市では、市制100周年記念事業の一つとして、また、文化プログラムとして令和3年度に「千の葉の芸術祭」を開催しました。

芸術祭を一過性の取り組みで終わらせず、継続して開催することで、本市の文化芸術の振興に大きな役割を果たすことができると考え、芸術祭の定期的な開催に向けて、「千葉市芸術祭基本構想」を策定し、令和7年度に「千葉国際芸術祭2025」として開催を予定しています。

なお、令和7年度以降も、本芸術祭を定期開催していくことで、本市の魅力を国内外問わず広く発信して文化芸術による多様な交流を生み出し、文化芸術にあふれた創造性豊かな街となることを目指します。

##### 2 アンデパンダン展とは

「アンデパンダン展」とは、審査なくどなたでも作品を発表できる展覧会の形式です。「アンデパンダン」はフランス語ですが、英語では「インディペンデント（独立、自立、無所属の人）」と訳されます。主体的に独自の道を貫き作品を制作するアーティストたちの心持ちを表現している言葉とも言えます。アートは、特定の人だけが表現するものではなく、誰もがづくり関わることのできる大きな器を持っています。（千葉国際芸術祭2025公式ティザーサイトから引用）

##### 3 総合ディレクター 中村 政人（なかむら まさと）氏プロフィール

アーティスト／東京藝術大学美術学部教授・副学長

1963年秋田県大館市生まれ。1993年「The Ginburart」（銀座）、1994年の「新宿少年アート」（歌舞伎町）でのゲリラ型ストリートアート展。秋葉原電気街を舞台に行なわれた国際ビデオアート展「秋葉原TV」（1999～2000）、「ヒミング」（富山県氷見市）（2004～2016年）、「ゼロダテ」（秋田県大館市）（2007～2019年）など、地域コミュニティの新しい場をつくり出すアートプロジェクトを多数展開。



中村政人氏

1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。2010年民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」（東京都千代田区）（2010～2023年3月閉館）を創設。地域に開かれたアートセンターとして、約13年間運営を行う。

2001年第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館に出品。マクドナルド社のCIを使ったインスタレーション作品が世界的注目を集める。

2020年より「東京ビエンナーレ」の総合ディレクターを務める。

著書に「美術と教育」（1997）、写真集「明るい絶望」（2015）、「新しいページを開け!」（2017）、「アートプロジェクト文化資本論：3331から東京ビエンナーレへ」（2021）。

平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞。